

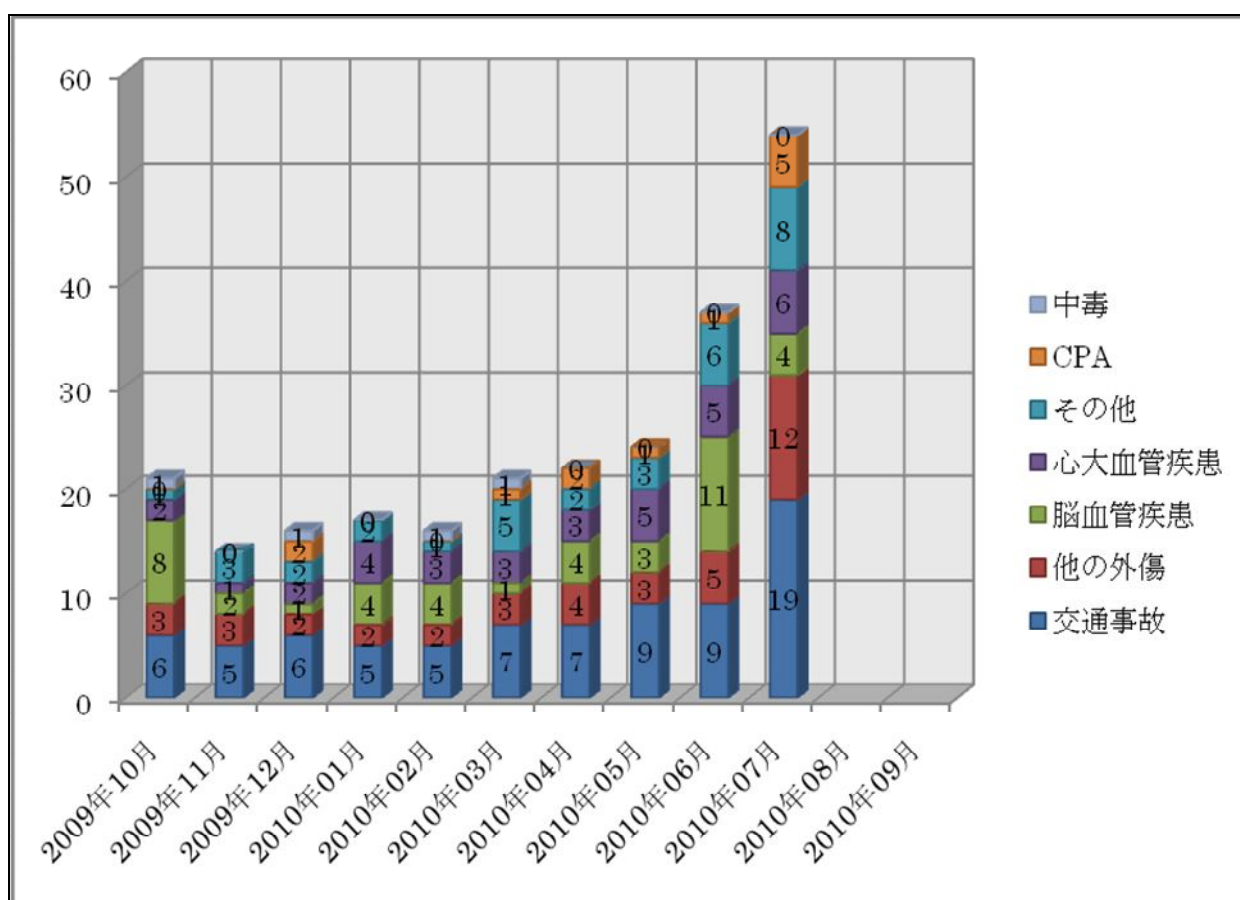
## 道北ドクターヘリ活動実績報告（H22年7月31日現在）

昨年10月1日より開始された道北ドクターヘリ事業も早、10ヶ月が経過しようとしております。7月31日現在の実績を報告します。

### 月別要請件数

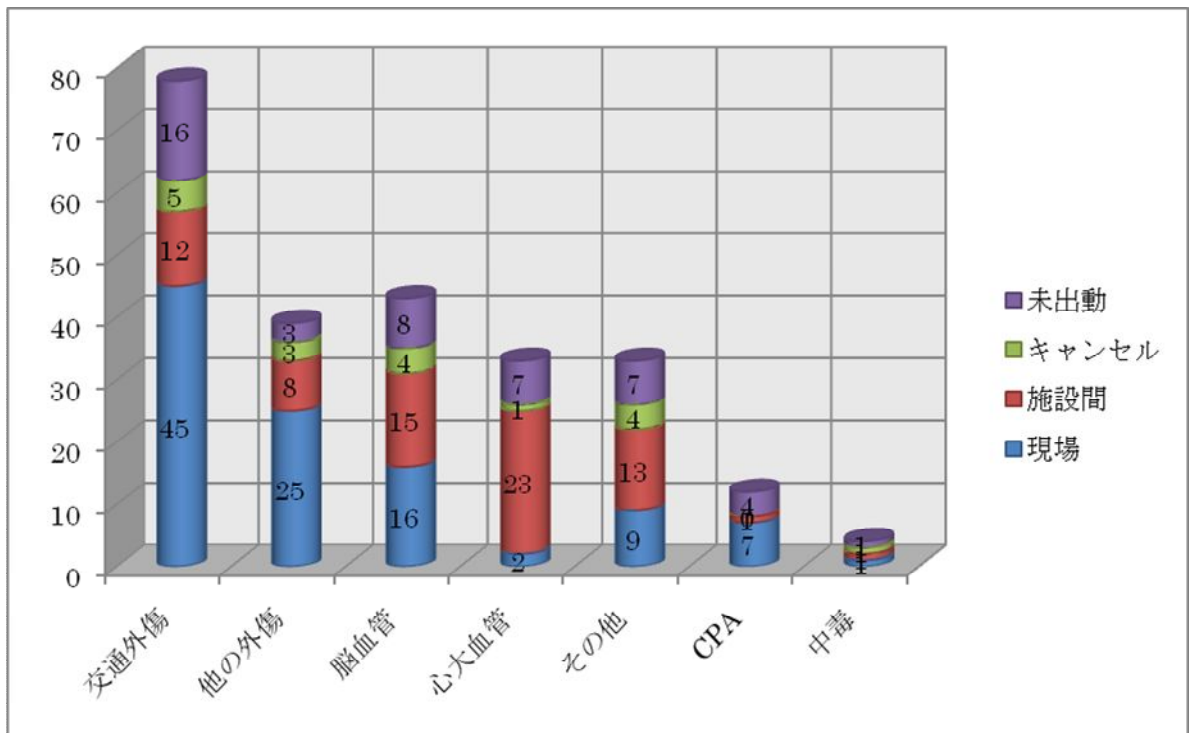
要請総数 242 件、出動件数 196 件、ミッション成功件数 177 件となりました。昨年11月より雪模様の天候が続き要請数が減りました。12月、1月には要請数の伸びも無く天候による未出動が続きました。2月になり要請は増えない状態でしたが、「ヘリポートからの離陸が可能であるなら出動する」というように運航スタッフの出動判断となり出動率は上昇し、3月より要請数も20回/月を越えるようになりミッション成功率も高くなりました。春の訪れにより要請も増えると思っておりましたが5月までは増えず、6月に入り急に要請が増えだし、平均1.2回/日へ、7月は平均1.7回/日の要請となっております。また、救急現場出動要請が70%を占めるようになり、早期の医師・看護師による初期診療の開始が図られており、運航圏内の各消防本部の意識向上が伺われます。

下図は月別要請数を疾患別に分けたものです。



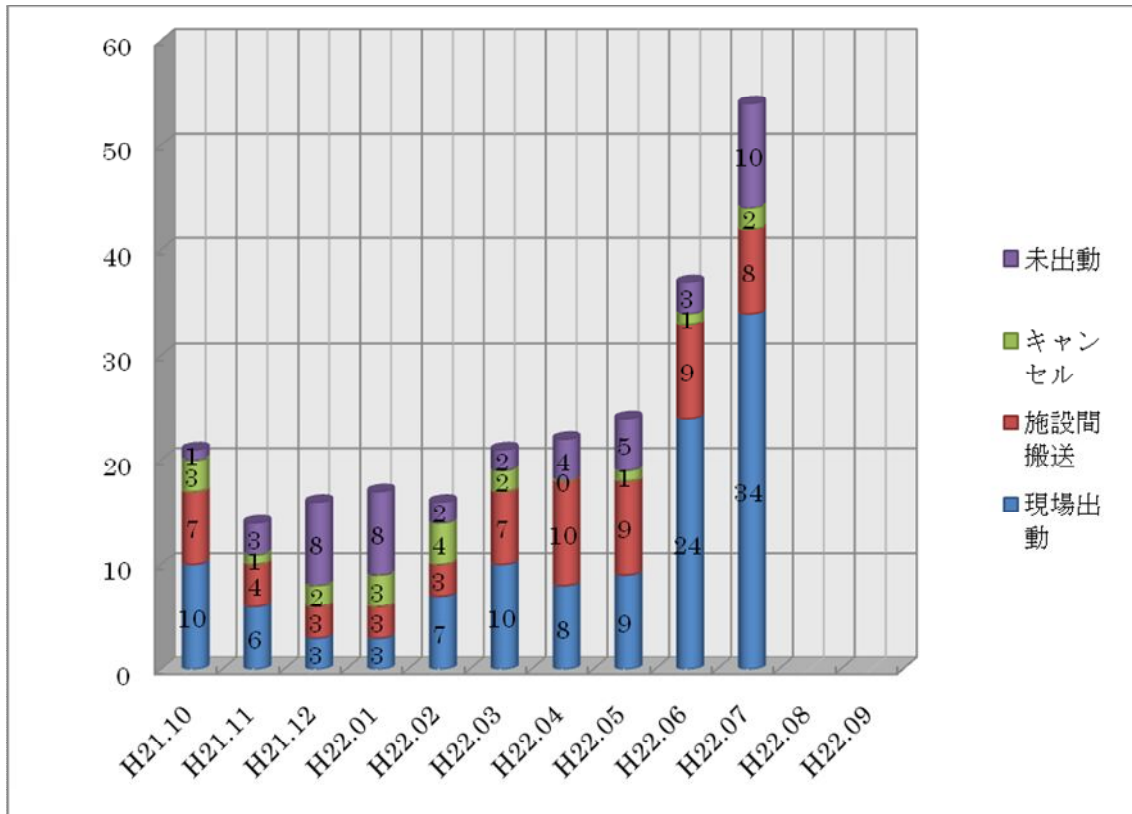
## 要請疾患

要請疾患の分類には多々あると思いますが、以下のように分類しました。交通事故 78 件、他の外傷（転落等） 39 件、脳血管疾患 43 件、心大血管疾患 33 件、その他の疾患 33 件、心肺停止 12 件、中毒 4 件となっています。外傷が 48%、脳血管疾患 18%、心大血管疾患 14%、その他 20%となっています。道北管内では医療過疎進んでおり、専門的な診療が可能な医療機関が減少しています。要請 242 件の中、ミッション成功 179 件（74%）、未出動 44 件（18%）、キャンセル 19 件（8%）となっています。旭川市内の中核医療機関への搬送・搬入が 146 件となっており搬送率は 82%に達しています。

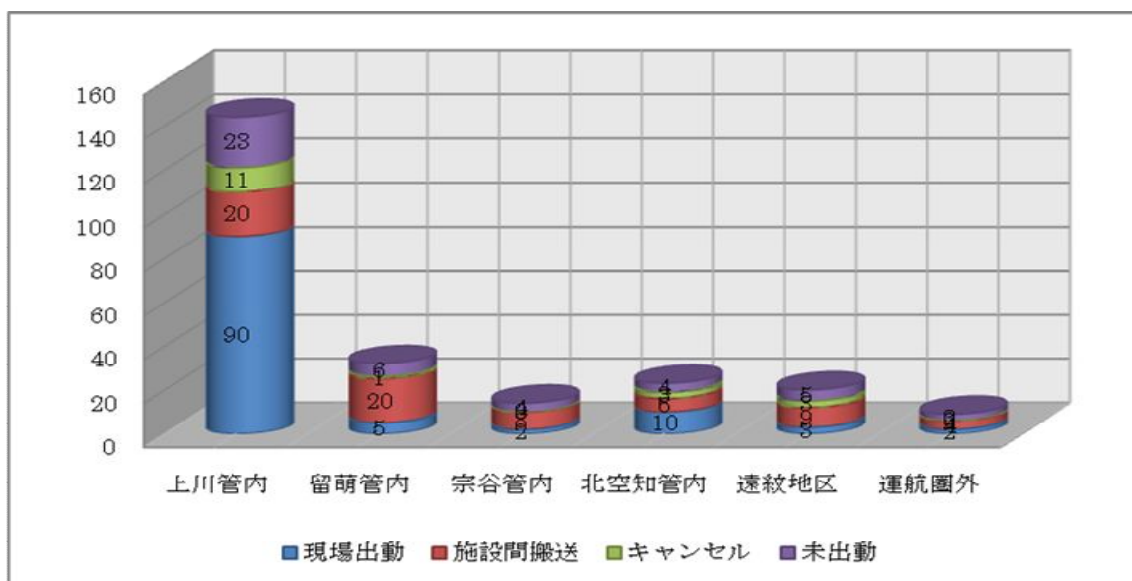


## 要請区分

日本航空医学会による要請区分による月別推移を示しました。救急現場出動が徐々に増加しており各消防本部よりの覚知要請も増えています。ミッション成功 179 件中 98 件 (55%) が現場出動です。

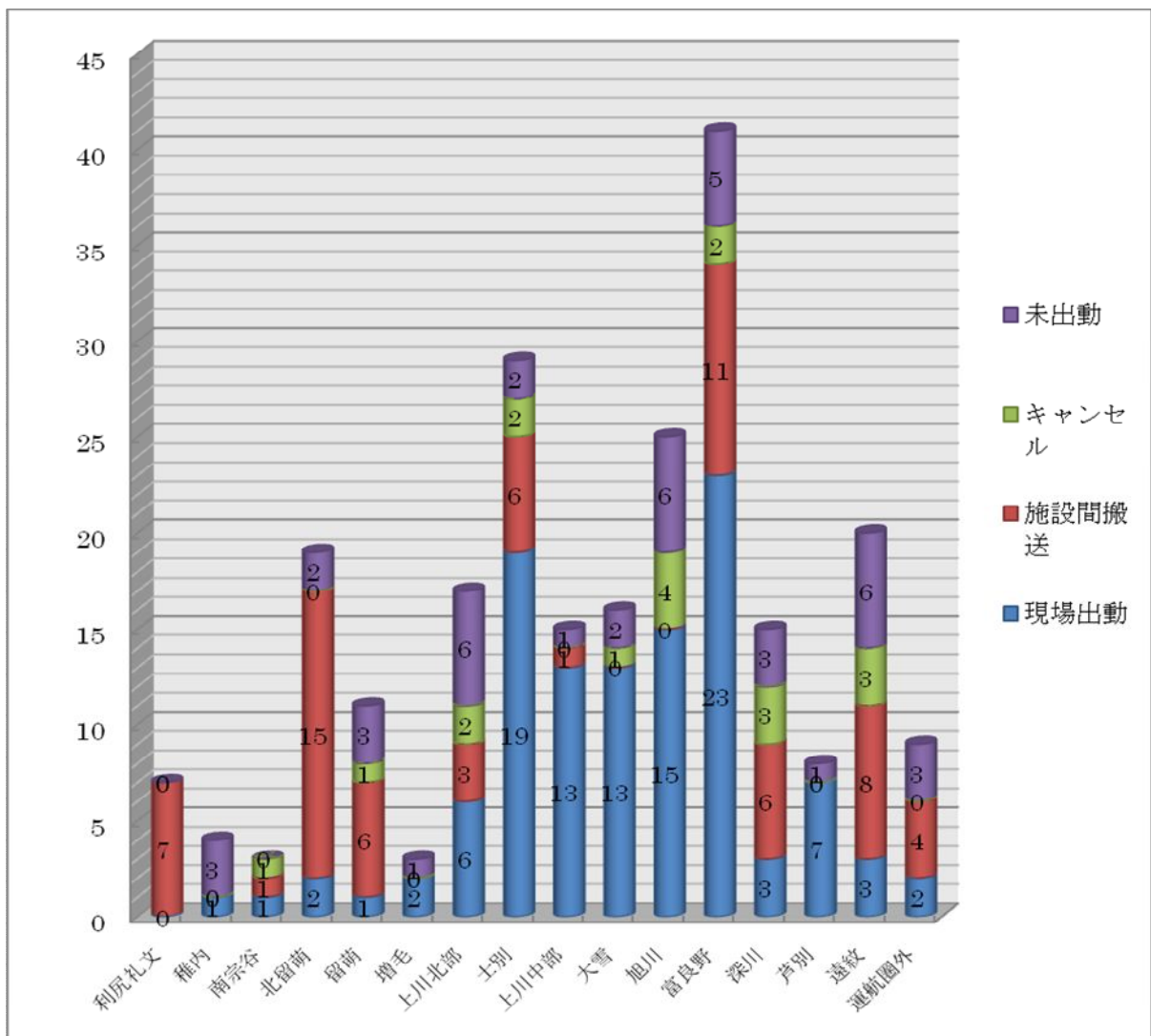


施設間搬送は直線距離で 50km 以上の地域基幹病院からの依頼が殆んどを占めます。最長距離は礼文島 220 km で 5 回出動、利尻島(180km) へは 2 回、また、運航圏外への搬送として遠軽厚生病院より札幌市立病院への転搬送も行っています。



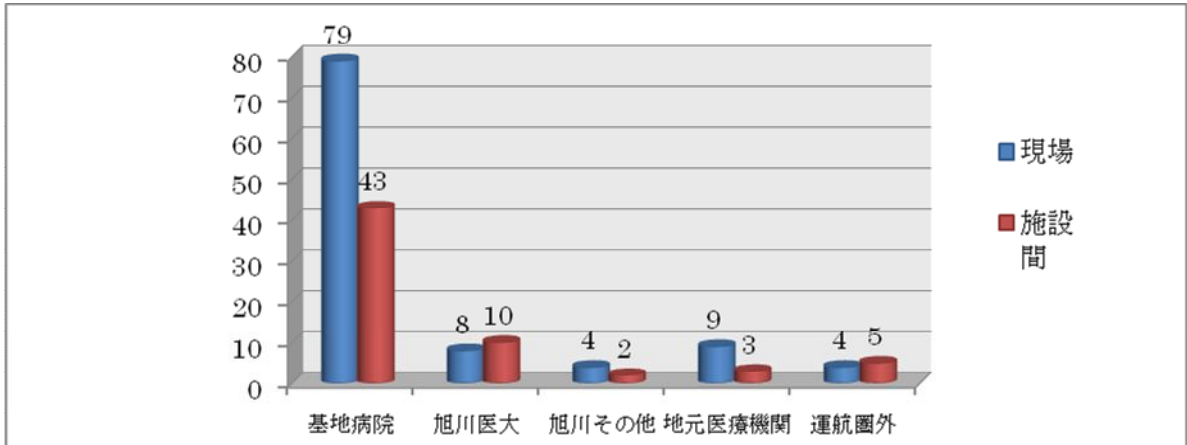
### 地域別要請数

ドクヘリは半径 50km 飛行時間 15 分圏内の救命効果が高いと言われております。当然、上川管内の要請数が 144 件と断然多くなっております。宗谷管内は片道 150 km 以上となり要請総数は 14 件にとどまっておりますが、利尻島 2 件、礼文島 5 件の出動を成功させています。最近では北留萌管内（留萌管内要請 31 件中 18 件）の道立羽幌病院よりの出動要請が増えており、ドクヘリによる医療連携を形成しております。遠軽・紋別地区からの要請は施設間搬送要請が殆どでしたが、最近では救急現場出動要請も出されるようになりました。北空知管内からの要請は 29 件で半数が救急現場への出動となっております。

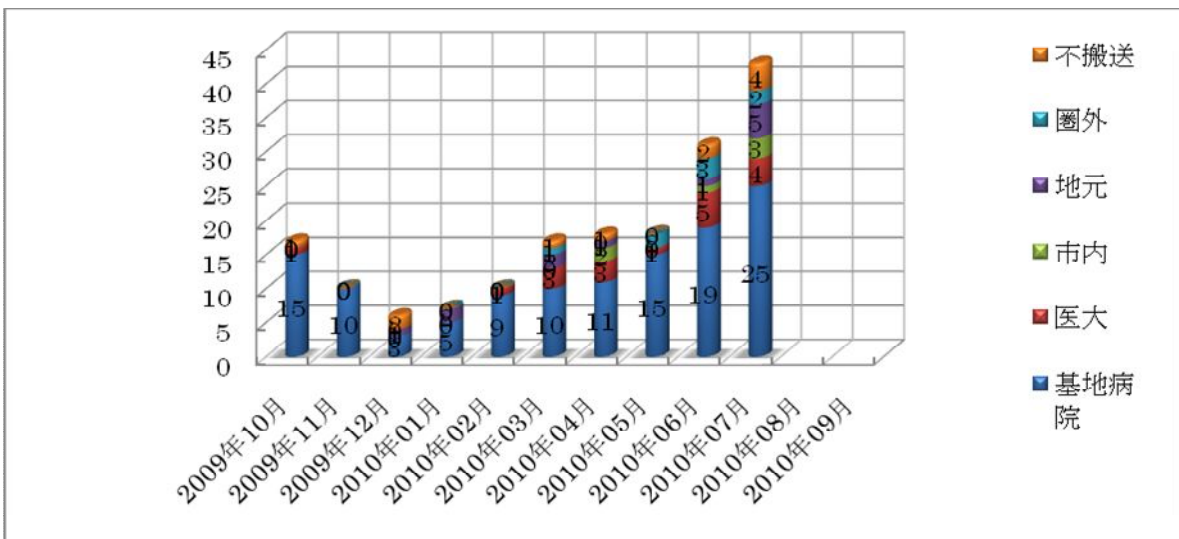


### 搬送先医療機関

各医療機関への搬送率は基地病院 70%、旭川医大 10%、地元医療機関 7%、運航圏外 5%、旭川市内医療機関 4%、不搬送 4%となっています。



下図は月別の搬送先を示しております。7月に入り基地病院への搬送率は57%になっており、分散化が図られております。



運航圏外医療機関への搬送は 9 件、このうち救急現場より基地病院も含めた旭川への搬送困難例が 2 例ありました。手稲溪仁会病院救命救急センターと市立札幌病院救命救急センターが受入を可で搬送となっております。



以上が7月31日現在までの道北ドクヘリ活動実績です。徐々に出動件数も増えております。旭川市内中核医療機関においても医師不足が顕著になり、道北の住民に安心・安全の医療を提供することが旭川独自では無理な状況になっておりますが、道央、オホーツク、十勝地方の医療機関とも連携を強化し、今後とも努力を重ねて行きたいと思っております。

旭川赤十字病院救命救急センター・道北ドクターヘリ基地病院  
副院長・救命救急センター長  
住田 臣造